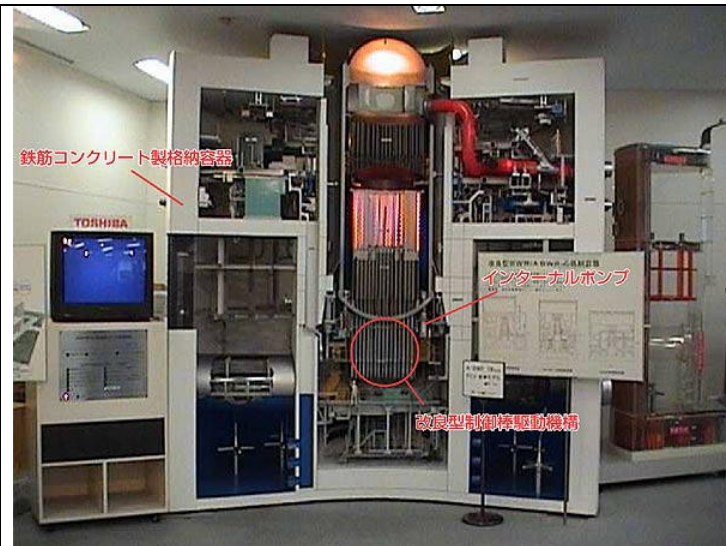


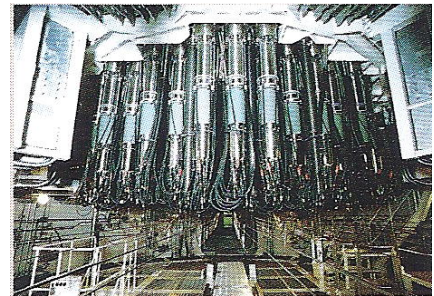
### 1) 圧力容器破損のニュース

3月28日の朝日新聞夕刊に「1/2/3号機の圧力容器破損」という記事が出ました。しかし「消防ポンプで1時間2トンという余裕の注水ができています」という事実からは、漏水量は少ない、と推論できます。

場所は、圧力容器下部でしょう。なぜなら、ここには約150本（直径約20cm）の制御棒案内管が溶接されており、過去に塩分でヒビが入ったことがあるからです。今回の海水注入で、腐食されてヒビが入り、炉水が格納容器の破損箇所を経由して、漏洩している可能性があります。漏洩が限定的（ヒビが広がらない）なら、問題は大きくなりませんが、注視が必要です。



東芝 ABWR 公開資料



圧力容器下部  
東電 ABWR 公開資料

### 2) プルトニウムが検出

3月29日の新聞によると、1号機北西500mの土壤に微量のプルトニウムが検出された、ということです。検出されたのは、Pu238、Pu239、Pu240で、これらは燃料棒から漏出した可能性が高い、としています。これは、核兵器にはPu238が含まれて居ないからです。

さて、このPuはどこから来たのでしょうか？

各号機とも、原子炉は基本的に安定冷却されており、500mも飛散する可能性のあるのは、燃料プールだけです。燃料プールの燃料が破損した際に、ペレットが落下し、水素爆発時または放水などによって、飛散したのでしょうか。

残念ながら、これらの情報からは号機を特定できません。No.10のメモで書いたように、使用済み燃料にも、かなりのPuが含まれているからです。

### 3) 坑道に汚染水

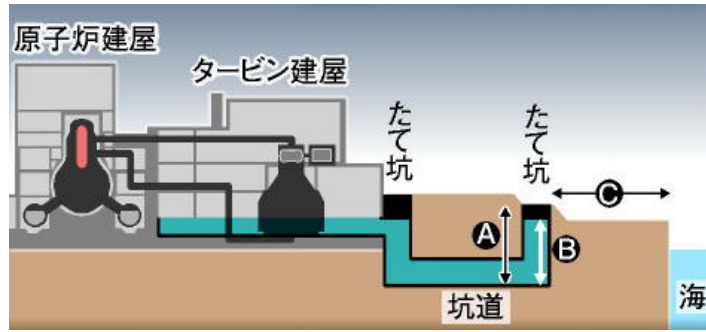
3月29日に、2号機建屋外のトレンチ（坑道）と呼ばれるトンネルに1時間当たり1000ミリシーベルト以上の放射性物質を含む水が充満していることが判明し、2号機の坑道体積は6000m<sup>3</sup>とのことです。

この坑道は、海水とタービンを循環させる配管などのためのもので、私も入ったことはありません。原子炉に注入している量は、1時間2トン程度で、こんな大量の水がどこから来たのか？と思いました。2号機は、放水していない模様なので、放水ではないでしょう。津波による浸水かも知れません。

所で、坑道は縦横が約3mで、長さは約100mとのことなので、体積は精々1000m<sup>3</sup>です。配管の体積を除くと、実質はもっと少ないと思います。この程度の量なら、2号機は格納

容器下部が破損しており、そこからの放射性物質が流入した可能性が考えられます。

この坑道の構造は下記とのことです。(朝日新聞 110329)



2011-3-29